



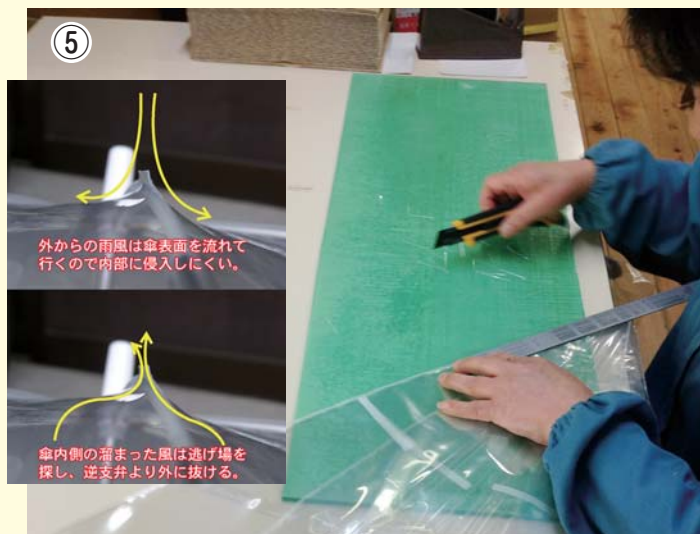
① 傘の骨組み



② 1枚のビニールから傘が2本分作れます。



③ 3角形に切ったビニールを8枚作ります。



⑤ 傘が裏返しになりにくい仕組み「逆支弁」が取り付けられます。



④ 電気の熱で8枚をつなぐと、傘1本分です。



⑥ 傘の骨にビニールを取り付けます。



⑦ 出来上がり。左側は最初にビニール傘を考えた、須藤三男さんです。

昭和54年6月18日第三種郵便物認可 育て！子どもたち
平成27年7月2日発行 第1760号
定価400円(毎週木曜日発行) 発行所 (株)産経広吉社
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-1
TEL 03-5259-8810

世界に誇る日本のもの作り

● 嵐に負けない！ビニール傘

およそ60年前のこと。日本で世界初の「ビニール傘」が江戸時代から続く傘や雨具の商店で考案されました。それから改良が続けられ、強風の中でもこわれにくい傘のメーカーとして知られるようになりました。国際的にも認められた、日本製のビニール傘ができるまでを紹介しします。

■協力II ホワイトローズ(東京都台東区) / 文II 河原潤子

産経子どもニュース



① 須藤三男さん 進歩を続けるビニール傘 逆支弁は「ビニール傘の内側から風が抜ける、外側から雨は入らない」という、傘が裏返しになってこわれるを防ぐ仕組みです。今では多くの人々が利用するビニール傘ですが、わたくし達はさらに努力と工夫を重ねて、より良いもの作りをがんばって行きたいと思ひます。